

令和4年度

運営に関する計画



大阪市立鶴見小学校

大阪市立鶴見小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・ほとんどの児童がいじめはいけないこととわかっているが、絶対にいけないことであることと理解していく必要がある。
- ・コロナ禍において、不登校児童数が少しずつ増えてきている。不登校児童に対する対策を組織的に進めていく必要がある。
- ・基本的な知識・技能は身につけているが、主体的・対話的な学習をさらに進め、発展的な学習を実践していく必要がある。
- ・学習が「わかる」児童の割合は全国平均を上回っている。個に応じた学習を進め、学習が「楽しい」と答える児童の割合を全国平均以上にしていく必要がある。
- ・コロナ禍において、C-NETとの関りが減少している。かかわりを増やし外国語に対する親しみが増すようにしていく必要がある。
- ・全国調査の体力合計点では、大阪市の平均を上回っているが、全国平均には届いていない。日常的な運動を体力の向上につなげていく必要がある。
- ・児童は端末を自分で扱うことができている。学習に有効的に活用していく方法を考えていく必要がある。
- ・教職員に時間のゆとりがない。教材研究や自己研鑽に向かえる時間を確保していく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を95%以上にする。
- ・毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を、毎年、前年度より減少させる。
- ・毎年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を、毎年、増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を42%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を69%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を45%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙における「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」の項目について、「ほぼ毎日」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・小学校学力経年調査の学校質問紙（学級担任）における「校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させましたか」の項目について、「よくしている」と回答する割合を50%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

学校園の年度目標

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を39%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。

学校園の年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を39%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 66 % 以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 40 % 以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（小・中学校）

- ・ 全国学力・学習状況調査の児童質問紙における「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。」の項目について、「ほぼ毎日」、「週 1 回以上」と回答する児童の割合を 90 % 以上にする。
- ・ 学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。

学校園の年度目標

- ・ 全国学力・学習状況調査の児童質問紙における「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。」の項目について、「ほぼ毎日」、「週 1 回以上」と回答する児童の割合を 90 % 以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査の学校質問紙（学級担任）における「校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させましたか」の項目について、肯定的に回答する割合を前年度より増加させる。

3 本年度の自己評価結果の総括

Empty box for self-evaluation results summary

(様式2)

大阪市立鶴見小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 全市共通目標(小・学校) <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 学校の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】 学校全体でいじめについて考え、「いじめ防止」の意識を高める。	
指標 学期に1回、「いじめについて考える日」を設ける。	
取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】 新たに不登校児童を増やさないような取り組みを推進する。	
指標 学期に1回校内研修会を実施し、それをもとに子どもの実態をとらえ、適切な支援を行っていく。	
取組内容③【1、安全・安心な教育環境の実現】 不登校児童の情報を教職員間で共有し、個別の支援を行う。	
指標 毎月2回の児童理解で、児童の情報交換を実施し、児童の様子について教職員全体で共通理解を図る。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	

大阪市立鶴見小学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を39%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を39%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を66%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を40%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>対話的な学習を推進する。</p> <hr/> <p>指標 話し合い活動を1日に1回以上行う。</p>	
<p>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>個に応じた指導を充実する。</p> <hr/> <p>指標 学年・習熟間で指導の仕方や教材について検討する機会を週に1回以上設ける。</p>	

<p>取組内容③【４、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>英語活動に親しむことを通じて、自己表現力の素地を養う。</p> <hr/> <p>指標 １日に一回以上外国語に触れ合う機会を設ける。</p>	
<p>取組内容④【５、健やかな体の育成】</p> <p>運動やスポーツに積極的に取り組むようにする。</p> <hr/> <p>指標 １日１回以上、学級担任が外遊びに関する声掛けをする。</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>後期への改善点</p>	

(様式 2)

大阪市立鶴見小学校 令和 4 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標(小学校) <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙における「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。」の項目について、「ほぼ毎日」、「週 1 回以上」と回答する児童の割合を 90%以上にする。 ・学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。 学校の年度目標 <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の児童質問紙における「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか。」の項目について、「ほぼ毎日」、「週 1 回以上」と回答する児童の割合を 90%以上にする。 ・小学校学力経年調査の学校質問紙（学級担任）における「校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させましたか」の項目について、肯定的に回答する割合を前年度より増加させる。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ICT 機器を使用することで、情報活用能力や自己表現力の素地を養う。	
指標 1人1台学習者用端末を活用した授業を、週1回以上実施する。	
取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教職員が教材研究や自己研鑽に取り組む時間を確保していく。	
指標 ・学校閉庁日については、夏季休業期間中は 4 日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては 1 日以上設定する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
後期への改善点	